



候補者 ROBERT REDFORD "THE CANDIDATE"

＜カラー作品＞

# ビル・マツケイ

明日のアメリカは私が創る！好漢レッドフォードが挑む大統領への道！

ロバート・レッドフォード／ピーター・ボイル／メルビン・ダグラス／製作ウォルター・コブレンツ／監督マイケル・リッチイ／アメリカ映画／日本ヘラルド映画





# 候補者 ビル・マッケイ

＜カラー作品＞アメリカ映画  
ワイルド・ウッド・リッチィプロダクション作品  
日本ヘラルド映画



ROBERT REDFORD  
"THE CANDIDATE"



## 次期大統領を創る影の主役たち



ナンシー  
(カレン・カールソン)  
マッケイの美人妻



ナタリー・ウッド  
マッケイの応援者として彼女自身で登場。



マッケイと一夜を共にする謎の女



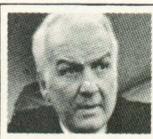
マッケイを支持する女性団体



ジョン・マッケイ  
(メルビン・ダグラス)  
ビル・マッケイの父親。元州知事という肩書きを生かしてサイドからビルを応援。



民主党  
ビル・マッケイ  
(ロバート・レッドフォード)  
有能な地方弁護士だったが、若くて清新な魅力を買われ、上院議員候補としてまつりあげられる。



共和党  
クロッカー・ジャーモン  
(ドン・ボーター)  
新興のマッケイ陣営相手に苦戦の現職議員



ハワード・クライン  
(アレン・ガフィールド)  
マッケイ陣営のプロデューサー。大胆な判断力の持主。マービン・ルカスの右腕。



マービン・ルカス  
(ビクター・ボイル)  
マッケイの選挙参謀。驚くべき冷静な頭脳でこのプロジェクト・チームを率いる。



ポール・コーリス  
(マイケル・ライナー)  
演説作者。ビル・マッケイの巧みな演説はすべて彼が書いた原稿にもとづく。



ウォリー・ペンダーソン  
(モーガン・アプトン)  
マスコミ担当。マッケイの対マスコミ対策を完璧にやりとげる強者。



リッチ・ジェンキンス  
(クイン・リーデッカー)  
進行係。マッケイのネクタイの色からテレビの写り。果ては髪形まで研究する若いブレーン。

一人の男が上院議員選挙に立候補した。彼の名はビル・マッケイ。民主党の長老で、昔州知事をつとめたこともある父親をもち、誠意と情熱をモットーにした、若くて清新で有能な弁護士だった。彼が立候補すると、直ちに選挙宣伝のためのプロジェクト・チームが組織された。そのチームを形作る人間達は、それぞれ、マスコミ担当、進行係、演説作者……等々と仕事を分業して徹底した選挙宣伝を展開していった。彼等はいずれも選挙にかけては、名うてのプロフェッショナルたちであったのだ。

あらゆる手段と方法を駆使して、ビルは対立候補のジャーモンに喰い下がっていった。そして選挙戦の大詰め。ジャーモンとのテレビ討論で一挙に優位に立ち、遂にビルは上院議員に当選する。長い選挙戦は終わった。しかしそこにいるのは、選挙のメカニズムにとりこまれた、操り人形然とした腑抜けの状態のビルであった。勝者は生まれるものではない。つくられるものだし、この映画は徹底したイメージ・アップ戦法が、大統領の道"さえ約束する現代の錬金術を描き、興味がない。

権謀作術がすべてのような政治の世界に論理と合理性をもちこみ、一人の若者を上院議員に当選させるメカニズムは、上質の推理小説を読むようである。同時に、これは、いかにもアメリカ的な主人公の皮肉な成功物語である。

主人公ビルに扮するのは、当代一の人気スター、ロバート・レッドフォード。政治に深い関心をもち、ウォーターゲート事件を描く『大統領の陰謀』を製作したことで知られている『候補者ビル・マッケイ』は、そんな彼が、『大統領の陰謀』に先立ち、全財産を投じて、製作主演した野心大作である。レッドフォードは、ロバート・ケネディを思わせるヘア・スタイルとエネルギッシュな身のこなしで、理想主義の色濃い少壮政治家像を再現する。

現実の事件に取材した『実録映画』でこそないが、民主党の党大会にカメラをもちこんだ外、ビルの遊説先としてカリフォルニア州の各地をロケし、迫真の効果をうんだ。キャストの最後に実在の政治家二十数名と「カリフォルニアの人々」がクレジットされるのは、そのためである。

選挙参謀のルーカスに扮するビクター・ボイルは、『ジョー』、『マンハッタン皆殺し作戦』で、現代人の屈折した心理を好演、『ヤング・フランケンシュタイン』で異才を印象づけた演技派である。

ビルの父ジョンを演じるメルビン・ダグラスは、1930年代に活躍した二枚目スターで、62年『ハッド』でアカデミー助演男優賞を受け、あざやかな転身ぶりを見せた。

ビルの妻ナンシーにクールな美貌の新人カレン・カールソンが扮し、レッドフォードの親友ナタリー・ウッドが彼女自身として特別出演しているのも話題の一つである。

監督は『白銀のレーサー』でレッドフォードと組み、スポーツ映画に新生面を拓いたマイケル・リッチィ。淡々とした描写の中に存在感をたたえ、健在である。



★11月13日(土)よりロードショー! 日比谷映画 (591) 5353